

会 議 録

第 1 5 回定例会

開会 令和2年11月9日

教育委員会会議録

1 開 会 令和2年11月9日 午後1時45分

2 閉 会 令和2年11月9日 午後2時50分

3 教育委員会出席者

教育長	榎 浩一
委 員	小林 信行
委 員	河口 雅子
委 員	菊池 健次
委 員	島 隆寛
委 員	三木 千佳子

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	平井 琢二
教 育 次 長	藤本 和史
教 育 次 長	藤田 完
教 育 創 生 課 長	高崎 美穂
教 職 員 課 長	小倉 基靖
人権教育課いじめ問題等対策室長	高畑 聖
総合教育センター次長	横畠 亜希子
教育次長(教育政策課長事務取扱)	長町 哲治
教 育 政 策 課 副 課 長	倉橋 文代

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[議 事]

教育長 協議事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項3 家庭学習応援動画「とくしま まなびのサポート 年度後半編」
～徳島県GIGAスクール構想対応版～について》

教育長 報告を求める。

総合教育センター次長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

菊池委員：この前の115本のアクセス数は分かりますか。

総合教育センター次長：多いものでは数千、少ないものでは数百となっている。作成する指導主事も数字にこだわらず、地道に取り組んでいくというコンセプトで作成している。

菊池委員：生徒さんに、「サイトにアクセスしましたか」という問いかけは担任の先生等からお話はされているのか。

総合教育センター次長：各学校の方で、動画視聴を宿題として出していたり、様々な活用を各学校でしていただいているので、かなりの件数見ていただいているものと思っている。

菊池委員：私もいろいろと拝見させていただき、勉強させていただく。

河口委員：今、見せていただいたものを作成するということは、かなりセンターの方で作業されているとは思うのだが、こういったものをこれからどんどん作成していただき、今現在だけでなく先々のことを考えた上で、さらに作成し、文理にもいただけたら、大変ありがたいと思う。技術という面でもいろいろ難しいと思うが、学年ごと単元ごとにさらに作っていただけたら、子どもたちのために役立つと思うので、よろしく願いしたい。

総合教育センター次長：今回の動画は、パワーポイントに音を載せているだけのため、前回に比べて手軽に作成できることを、各校の先生方にもお

示しする形をとっている。有事の際には、手軽に作成できる動画も活用し、発信していただきたいという目的もある。また、委員の御意見も参考にして頑張ってもらえる。

《協議事項 2 令和 2 年度末徳島県小・中学校教職員人事異動要綱について》

教育長 説明を求める。
教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

小林委員：10年以上を認める特別な場合とは、どのような場合か。
教職員課長：教科の充足状況や大きな研究会等がある特別な場合のみである。

教育長 協議事項 2 を議案第 5 2 号として付議してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第 5 2 号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第 5 2 号を原案どおり決定する旨を告げる。

《協議事項 3 令和 2 年度末徳島県立学校教職員人事異動要綱について》

教育長 説明を求める。
教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

島委員：大きな変更点はあるか。
教職員課長：本年度は特にない。

教育長 協議事項 3 を議案第 5 3 号として付議してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第 5 3 号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第 5 3 号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項1 徳島県立しらすぎ中学校開校準備の状況について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

小林委員：校章は二色を使うのか。

教育創生課長：この案でいきたいと考えている。

小林委員：一色より色が多い方がよい。

河口委員：今募集目標に対して希望者が少ないという現状がある。今説明を聞いたら、ホームページ、ポスター、チラシなど色々と努力をなさっていると思う。私もホームページを見させていただいたが、さらに楽しく学びたいと思わせるホームページのあり方はないのか。校訓の説明もしっかりとしているが、何か学びたいという意欲を持たせるような、技術的なこともあると思うが、もう少し内容を工夫してはどうか。そういったことが希望者の増加につながるのではないか。そして、できるだけ多くの方の学びに繋がるようにしてほしい。

教育創生課長：技術的な制約もあるが、ブログコーナーで親しみやすい内容を掲載しているが、さらに工夫していきたい。先日も新聞の一面に広報していただいたこともあり、問合せも継続していただいております。今日現在16名の方から申請をいただいている。また、入学を検討していただいている方も複数名いるので、引き続き広報に努めていきたい。

島委員：16名の方の内訳はどうなっているのか。

教育創生課長：30代から80代の方々。60代以上が9名なので、若い方よりも高齢の方が多い状況である。外国籍の方は5名いる。

小林委員：1年目は希望者が少なくても、様々なことを試すことで、注目を浴びる。また、新聞にも掲載され、知らなかった人も知ることができている。「読者の手紙」にも掲載されて、関心を持つ人が増えてきたのではないか。たとえ今年少なくても、授業をしている様子などが分かれば次年度に繋がると思うのでがんばってほしい。

教育創生課長：テレビ局の方にも協力をいただき、継続的に取材を行っていただいている。今後も、協力いただきながら広報活動を進めてまいりたい。

教育長：発信の方法を工夫することも必要だが、発信の内容、ターゲットをどうする

のか、どういった内容にしたら、その人たちがやる気になるのかを考えて工夫してほしい。

《報告事項2 令和2年度第2回徳島県いじめ問題等対策審議会の議事内容について》

教育長 報告を求める。
いじめ問題等対策室長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

小林委員：先生によるいじめの話を以前にしたと思うが。

いじめ問題等対策室長：はい、前回の定例会で聞かせていただいた。

小林委員：先生によるいじめという言い方はおかしいかもしれない。先生による生徒へのいじめという考え方でいくと、ここに入れるべきではないのかもしれないが、先生方の言葉遣い、日頃の接し方も子どもの重荷になることがあるため、先生方自身が意識付けするという事は大事な事だ。コンプライアンス推進室とも協力しあって、生徒の精神的な負担にならないように、教員の言動について、もっと注意していただきたい。

島委員：最近子どもたちもLINEやSNSを使ってやりとりをしている。目に見えやすいいじめというよりは、特定の子をはずしてみるなどの、SNS上で展開されている今どきのいじめのあり方について、このチェックシートで吸い上げることは可能なのか。

いじめ問題等対策室長：閉鎖されたSNS、特定の者しか見ることができないものの中でのやりとりは、なかなか見えにくいという状況があると思う。ただそういったときに、気付く手段として、子どもたちからの訴えというところが大事になってくると思う。今回の問題行動等調査はいじめの発見のきっかけにもなっているが、子どもたちが自分から言えるような雰囲気は大分出来つつあると思うので、そういったところをしっかりと吸い上げて、それで気が付いたことにも早期対応できればと考えている。

島委員：LINE自体はもうそういう部分の相談にのるサービスが展開されている。今は少しかたちの違ういじめがあるということが実感としてある。

河口委員：このチェックシートは、3月末に完成するのか。それはここに書いてあるように、教育委員会、管理職、生徒指導教員が持つのか。

いじめ問題等対策室長：そういった意見が検討部会では出されているので、今はその方向である。

河口委員：前回の定例会でもいじめの話題が出ていたが、やはり私はこの3番目の未然防止がすごく大事な部分だと思う。いろいろなアンケートで子どもの思いを未然にキャッチするとか、それを横の連携で先生方が組織的に受け止めて未然防止に繋がるような取組を学校で行っていただくということも、すごく大事な部分だと思う。その上でチェックシートができればさらによくなると思う。そのあたりをさらに予防策としてやっていただけたら有り難いと思う。先生方の大変な部分もあるでしょうが、とにかく担任の先生はしっかり子どもに目を向ける、子どもに寄り添う、そういった体制を今後してもらいたいと思う。

菊池委員：チェックシートのお話があったが、この作成には大変な時間をかけ、いろいろなパターンを考えられたとのこと。いじめにはいろいろな背景があると思うが、それらに対応したチェックシートとして、全てを網羅できるかどうかは、これからの作業の成果によるものだと思う。自分の子どもがいじめにあっているかどうかは、なかなか家庭では分かりにくいというのが現実だが、それを全て先生方に対応していただくというのは、学校現場ではそうなのかもしれないが、家庭での気付きに関する何か啓発であったり、学校への情報提供であったり、そういった家庭とのやりとりができる工夫もしていただけたらと思う。

いじめ問題等対策室長：私もこの3月まで中学校現場で勤務をしていたが、やはり担任の先生だけではないのだが、担任を中心として頻繁に家庭との連絡、家庭訪問も含めて本当に密に連絡をとっていたと思う。そこでやはり気が付いて、顔を合わせ、声をかわすことで信頼感も得るので、そういう中でいろいろ発見して早期対応した事例もある。やはり、家庭と連携した取組は重要であると考えている。

藤田教育次長：今の件ですが、具体的にお子さんの様子で、「こういうところが変わったら気を付けてください、学校とも連絡をとってください」という啓発資料を県教委でも作成して各家庭に配付を行っているが、御意見をいただいたので、今後とも二重・三重の策を重ねてやっていかなければと思う。

三木委員：少しずれるかもしれないが、大体いじている子の自覚がないことがほとんどである。自分たちにとって正義なので、それをやっているだけで、それによっていじめられていると感じさせてしまっていることも自覚がない

ままのケースが多いと思う。そういう子たちにチェックシートをしても現れてこないの、どうしたらいいのかといつも思うのだが、そういうことへの対策というのもチェックシート以外の何か別のものを考えていると思うが、教えていただきたい。

いじめ問題等対策室長：学校、教員はもちろん、いじめられている子どもたちに寄り添って、しっかりその立場に立ってその子を守り通すというのが大きな役割だと思う。それとは別にやはりいじめた側に何が悪かったのかを気付いてもらって、いじめた子どもたちに心から謝れるようなそういう気持ちを育てていくということも大きな仕事と思うので、もしそういうお気付きのことがあれば、まず学校に連絡いただいて、情報をいただくと、いじている側にもわかるような指導を、それも担任一人に任すのではなく、組織的な対応をしていくので、また情報をあげていただけたらと思う。

三木委員：ここで話す内容ではないかもしれないが、学校間の子ども同士の生徒から子どもというのはあるが、親子間の過度な干渉によることへの対策はあるのか。

いじめ問題等対策室長：それは保護者が、子どもさんが可愛いがあまりにとということか。

三木委員：過度に教育熱心なあまりの干渉ということである。それは各家庭のことなので、それを突っ込む話ではないと思うのだが、たまに、「大変だから助けて」というような感じの子どもの声を聞くことがあり、しかし言えないので、どうしたらいいのかという事例がある。

いじめ問題等対策室長：子どもさんが困っているということか。

三木委員：その子の精神状態の浮き沈みもあると思うので、いつものことではないと思うが、あまりにも干渉されていて「つらい、やめたい」というような愚痴を聞いたときに、「頑張れ」としか言えないが、これは自分が言う話ではないし、どうしたらいいのかという場面がたまにある。学校にお願いすることでもないと思うが、そういった子どもの救済策を何か考えればと思う。

いじめ問題等対策室長：スクールカウンセラーが配置されているので、子どもさんが困っているのであれば、情報をあげていただいたら、スクールカウンセラーに子ども自身をつなげることができるし、ケースによっては保護者の方も相談を受けることもできるので、それで心のケアをすることで改善の方向へ導くといった手を

打つことができる。

三木委員：スクールカウンセラーに相談できる子は大丈夫だ。

いじめ問題等対策室長：なかなか相談に行けない子がいるのか。

三木委員：そうした場合もあると思う。

いじめ問題等対策室長：家庭環境に働きかけるという意味では、スクールソーシャルワーカーという専門家がいる。そうすれば、例えば福祉につながることもできるので、やはりまず情報を学校へあげていただけたら適切な方法で相談にのることができる。

三木委員：そういうときには、連絡した方がいいのか。

いじめ問題等対策室長：子どもさんが困っているのであれば、やはりSOSをあげていただいた方が子どものためになると思う。

三木委員：勘違いかもしれないが、連絡した方がいいのか。

いじめ問題等対策室長：例えば、児童相談所も虐待でなくても疑いがあれば声をあげてくださいということを行っている。少しでも心配だなと思ったら連絡していただいた方が子どもさんにすれば助かることなので、連絡していただけたらと思う。

教育長：子どもが困っても一人では解決できない。大人も一生懸命していると思うが、大人だけで解決、処理できないこともたくさんある。もちろん、学校だけで解決できないこともたくさんある。それぞれが知恵を絞らなければいけないので、まずはいじめ問題もそうだが、気付いた人が何か行動を起こす。そこからつながっていくものがたくさんある。全部が全部100%解決しないこともあると思うが、気付いた人が行動しないと何も変わらないので、そこは気付いたことがあれば、学校にまず相談していただく、友達のお母さんにも相談していただく、何かアクションを起こしていただくということが大事だと思う。それと先ほどいじめの話があったが、私が行ったGIGAスクールに関係したプログラミング教育の学校視察で、一番驚いたのは、自分の考えや気持ちをコンピューター上に表現して、友達のタブレットでそれが可視化されるという内容である。人の気持ちや考え方が見えるということで、「自分とは違うんだ」、「人はこういう風に考えているのだな」ということが分かることが、タブレットである程度できていたという点がすごい発見であった。やはり先ほど委員から話があったように、人の気持ちが分からないから気付いていないということをもまず気付くためには、見える化、可視化してあげなければいけない。チェックシートにもあるが、普通の授業でも自分と他人が考えていることが違って対応の仕方も違うんだということに少しずつ気が付いてもらうためにも、可視化をしっかり行っていくことは大事と考

える。

[非公開]

《協議事項1 令和2年度11月補正予算案について》

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午後2時50分